

踏み跡 <My Mountains>

北八ヶ岳・奥秩父

北八ヶ岳と瑞牆山麓

No.313

平成21年9月7日 快晴 <自宅→千葉北IC→諏訪IC→奥蓼科→横谷峡→明治湯（泊）>

夏休みの喧騒も消え去ったところで、北八つと奥秩父の山麓散策を楽しむことにした。

千葉北ICから高速道路に入って、途中で休み休み諏訪ICまで。夏の終わりとは思えぬほどのすっきりした青空に、見えるべき山は大体きれいに見えて、素晴らしいドライブになった。

諏訪ICで下りて国道152号線経由で299号線に入ると徐々に登って行くようになる。渋川左岸を走って渋の湯まで行ってみることにした。

渋の湯はどん詰まり、高見石や黒百合平へ入るのに随分通った道だ。混雑する季節が終わった後の渋の湯は人影も少なくひっそりとしていた。下り坂をゆっくりと走りながら今日の宿を探した結果、明治湯に泊ることにした。予約した後はまだ時間が早いので横谷峡を歩いて見ることにした。

水量豊富な溪谷沿いの道や林間の小路など変化に富んだ道は、絶えず水音が鳴り響いていて気持ちが良い。（右写真）

カメラを片手に、植物や清流を撮影しながらの散策は時間が経つのが早い。

明治湯に下って行く細い道は、谷底には宿の赤い屋根が見え、やや上を見上げると遠くに蓼科山の美しい曲線が見えてなかなか味がある。宿は車が通る道路からかなり離れているので、車の音も聞こえず静かで良い。

温泉と冷泉があり冷泉は27℃、交互に入浴すると体の温まり方が良いし、持病の膝の調子がスーッと引くように良くなる。湯治の効果とはこういうものなのか。

地元の食材で工夫した手作り物ばかりの食事は心がこもっている感じがし、また多すぎることもなく不足でもない適量の料理は、味も良いし満足。例によって何度も入浴を楽しんで第一日目は終わった。



平成21年9月8日 晴のち曇 <明治湯→横岳ロープウェイ・坪庭→麦草峠→松原湖→信州峠→増富温泉（泊）>

早起きして朝風呂の後で付近を散歩して見たが、もう秋の冷気が感じられた。

谷底の宿を出て国道299号線・県道192号線（ビーナスライン）を経て横岳ロープウェイの山麓駅へ。

快晴の空にくっきりと見える懐かしい山々の眺めは文句の言いようがない。駐車場に車を置いてロープウェイに乗って山頂駅へ。

坪庭からの南アルプス・中央アルプス・乗鞍・北アルプスの大パノラマはいつ見ても素晴らしい。紺碧の空に緑溢れる八ヶ岳の斜面の曲線、その後ろに八ヶ岳南部の主峰の岩峰、そして西の空にどこまでも続く北アルプス。笹の輝きと枯れた木の白い色を見ると、北八つへ来たんだという実感が



迫ってくる。（右写真：坪庭からの眺め 左下写真：縞枯山荘付近）



坪庭をひとわり歩いた後は縞枯山荘付近まで足を伸ばしてみることにした。空の色と同じような色の三角の縞枯山荘の屋根が草原から突き出しているのが見えると、この山を歩いたいくつもの記憶が蘇ってきた。

下山もロープウェイを使って、次の目的地である増富温泉へ。

蓼科高原を後にして国道299号線（八ヶ岳横断道路）に入り、麦草峠越え。急なカーブの連続を下った後右に入り松原湖へ。湖畔を走るとすぐに国道141号線（佐久甲州街道）に出て、しばらくは小海線と並走。

右は八ヶ岳、左は奥秩父。佐久広瀬から県道68号線（梓山海ノ口線）に入り、信濃川上から南へコースをとって、左に大きな小川山、右に横尾山その間にはさまる信州峠へ。

信州峠を越えると曇り空に変わってしまった。しばらく下ると、瑞牆山の迫力ある鋸歯状の峰が時々視界に入って来るようになった。釜瀬川に沿った道まで来ると瑞牆山の尖峰も鮮やかに見えるが、肩の高さまでが雲の中でもう少しで見えなくなりそうな感じなのが残念だ。

みずがき山荘の前に車を停めて初秋の山麓散歩。富士見平まで登って金峰山と瑞牆山を眺めようと思って歩

踏み跡 <My Mountains>

き始めたが、もう 16 時を過ぎていることに気が付き断念。30 分ほど登った所できのこを探しただけで下山することにした。増富温泉の津金楼が二日目の宿。

平成 21 年 9 月 9 日 曇のち晴

<増富温泉→みずがきの森→茅ヶ岳林道→深田久弥公園→昇仙峡→武田神社→勝沼 IC→自宅>

旅の最終日も勿論朝風呂・朝散歩の後で朝食。天気はあまりすっきりしないが、寄り道をしながら東京方面へ向かうのが本日の行程。まずは、そこらじゅうに看板が出ている「みずがきの森」とやらへ行ってみることにした。行ってみてわかったことだが、全国植樹祭が行われた場所が「みずがきの森」と名付けて残されているということだった。周囲の状況をつぶさに観察して見ると、こんなことが想像できた。

全国から数多くの人が集まり、皇族をお迎えして行われる全国植樹祭、開催にあたって選ばれたこの地で最初に行われたことは自然林の大伐採と道路や駐車場作り。そして、この為にわざわざ伐採した場所にはうやうやしく植樹。終わった後に残ったものは新たに植樹した林のほかに、むりやり削り取られた山にできた道路と駐車場と小さな東屋。自然林は消えて「美しい人工林」に化けた。植樹祭が終わってしまえば、この地に多くの人を訪れるわけでもない。補修の予算までは考えられていないので、道も駐車場も年々荒れて行き、やがて見ともない景色に変わってしまう。(こんなことでなければ良いのだが)

みずがきの森からの眺めは曇天ゆえに喜べるような内容ではなかったが、周囲の林の美しさが目に止まった。根古屋で県道 23 号線（韮崎増富線）と分かれて茅ヶ岳広域農道に入ると緩やかな斜面に広がる農地の中の道で、ほぼ一定の高度を撫でるように走るようになる。宮久保で左折して県道 27 号線（韮崎昇仙峡線）に入ると、今度は茅ヶ岳に向かってひたすら登り続けるような道になる。振り返ると釜無川と甲府盆地に向かってゆっくりと下り続ける斜面がよくわかる。まさに地形の妙を肌で感じる道である。

海拔 950m の高さまで上がった所、饅頭峠の東側に深田久弥氏の終焉の地を記念する深田記念公園がある。1984 年 4 月、ここから茅ヶ岳と金ヶ岳に登った日のことを思い出しながらしばらく散策。今では深田久弥と言う名前を知らない登山者も少なくない。時の流れに抗うことはできない。

東へホッチ峠をへアピンカーブで下って亀沢川の谷へ下り、再び支流を遡り東側の山を越えると昇仙峡の一番奥にある金桜神社、ここは海拔 900m 位あると思われる。

金桜神社から 3Km ほど下ったところに荒川ダムの入り口の看板があったので寄り道して見ることにした。荒川ダムはロックフィル式ダム、せき止められた湖には能泉湖という名が付いている。源流は金峰山だ。

ロックフィル式ダムは写真に撮ると格好が良いので好きだ。(右写真)

ダムサイトを散策したあと昇仙峡で大休止。溪谷沿いの遊歩道を歩いて、岩場を走る水流の織りなす文様をしばし楽しんだ。紅葉の盛りになるとかなりの人が繰り出すに違いない。まだ早いとは言っても遊歩道を歩いている人の数は多い。

昇仙峡ライン（県道 7 号線）を離れて帯那山の腹を巻くように走り、千代田湖の脇を抜けて盆地（市街地）に下りた。次の目的地は武田神社。何十年振りだろうか、夜行列車で着いた甲府駅から暗闇を歩いて帯那山を目指した日のことを思い出す。甲府盆地と山との境目にあるので、山を背にして立つと前に盆地が大きく広がって、その大きさがわかる。

酒折から国道 20 号線に入り、勝沼まで甲府盆地を体感しながらのドライブ。勝沼 IC から中央自動車道に入って帰宅した。



以上